



図書たより

NO. 6

Jan 2015

明治大学中野図書館



図書館員オススメの本

【福井健策，吉見俊哉監修『アーカイブ立国宣言：日本の文化資源を活かすために必要なこと』ポット出版，2014】



日本のマンガ・アニメ・ゲームなどのサブカルチャーが“クール・ジャパン”として注目を集めるコンテンツとなって久しい。デジタル化が進み、誰でもいつでもこれらのコンテンツにアクセスができるようになった。しかし、コンテンツは蓄積され参照されて、初めて利活用に繋がる。実は日本におけるアーカイブ事情はかなり貧弱で、例えば EU のヨーロッパナ (Europeana) は既に 3,000 万件のデジタルデータを有しているが、日本は法整備も含めアーカイブの環境が整っていない。本書は各分野でアーカイブに奮闘している人たちのインタビュー（「マンガ」では国際日本学部の森川嘉一郎先生）や「デジタルアーカイブ振興法」制定への最前線の動き、“アーキビスト”の養成など注目の話題が盛り込まれたタイムリーな一冊である。

【佐々涼子『紙つなげ!彼らが本の紙を造っている：再生・日本製紙石巻工場』早川書房，2014】



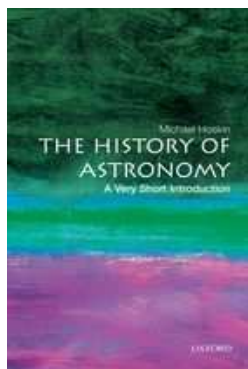
ここで紹介しようと、一度選んだテクノロジーに関する図書は「何か間違っている」と感じて途中で読むのをやめてしまった。どうしようかと思っていたそんな時、NHK ラジオの深夜番組にこの本の著者が出ていた。東日本大震災で壊滅的な被害を受けた工場がわずか半年で紙を作るラインを復活させ、翌年には全面復興を成し遂げたことを中心とするノンフィクションの作者が自著のことを語っていた。自分でも今読みかえして涙してしまうところがあるという。石巻工場が日本の出版物を支えているということを知り始めて知った。悲しいあの日からスタートする話だが、読まなければ知ることのできない貴重なことが書かれている。伝えるべくして書かれた本という感じである。そして日本の本は美しく優れた紙でできている。

【岡潔『春宵十話』改版，KADOKAWA，2014(角川文庫；18575. 角川ソフィア文庫；L-200-1)】



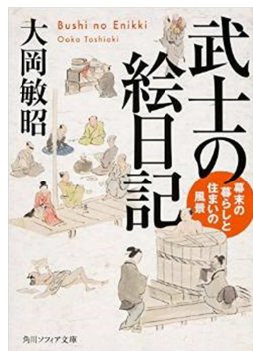
岡潔は世界的な難問を解いた非常に有名な数学者であるが、現在、その人について中高年以上の人は結構知っていると思うが、大学生など若者は知らない人が多いのではないかと思います。年配の人も数学的業績というより岡潔のエッセイを読んで覚えているのだと思う。この本も有名なエッセイの一冊である。著者は数学者なのだが、人の中心は「情緒」であり数学も情緒の表現だと意外なことを書いている。なんだか偏屈なおじいさんが語るお話のようだと感じるが、日本文化もテーマとなっていて、総合数理と国際日本学部の融合のような一面もある。そしてなんだかじっくり学問に取り組むということをお願いさせてくれた。とりあえず、本文の後にある中沢新一氏の解説だけでも読んでみてほしい。

【『Very Short Introductions』シリーズ, Oxford University Press】



中野図書館に入っすぐ、実務軽読書コーナーにある英語リーダーを借りて、英語学習に活用されている方は多いことと思う。そんな皆さんにご紹介したいのは、中野集密書架（図書館奥のボタンで開閉する棚）にある、Oxford University Press 刊行の Very Short Introductions だ。このシリーズでは、歴史や政治、宗教、哲学、科学、時事問題、ビジネス、経済、芸術、文化など、様々な分野について、専門家の新たな視点を盛り込みながらコンパクトにまとめられている。タイトルの一部を挙げると、*Modern Japan*、*Design*、*Human rights*、*Game theory*、*Economics*、*The history of astronomy*・・・請求記号は 083/11/No ポケットサイズなので電車などでも読み易い。専門分野を学ぶ入門書として、興味のある分野を知る手がかりとして、気になるタイトルにチャレンジしてみてもいいだろう。

【大岡敏昭『武士の絵日記：幕末の暮らしと住まいの風景』KADOKAWA, 2014(角川文庫；18879．角川ソフィア文庫；SP I-125-1)】



この本は、幕末の下級武士・尾崎石城の絵日記『石城日記』を解説したものである。江戸時代の武士の絵日記としては、現在のところ発見されている唯一のものだそう。ちょっととぼけた絵とともに、僧侶や町人、子どもたちなど異なる階層の人々と親しく付き合い、助け合って生きる幕末の武士の日常が生き生きと描かれている。身分を越えて、よく飲み、よく食べ、書を読んで唄もうたう。堅苦しい「武士」のイメージを軽やかに裏切る、風通しのよい生活だ。しかし時は幕末、このおおらかな暮らしも時代の大きなうねりと決して無関係ではなかった事もうかがえる。石城は藩政に意見したために下級身分に下げられたが、負しくとも武士の矜持を失わず、真摯に生きた。幕末の日常生活が活写された貴重な記録であると同時に、現代は物質的には豊かになったけれども、目に見えない豊かなものを失ってしまったのでは……？と感じさせる一冊だ。



図書館からのお知らせ

試験期間は日曜日も
やっています！



◆試験期にともなう休日開館

実施日 1月11日(日)、1月12日(月・祝)、

1月18日(日)、1月25日(日)

開館時間 10:00 ~ 17:00

◆春休み中の開館時間について

2月4日(水)より 開館時間は 10:00 ~ 19:00 になります。

